

いのちのネットワーク

槇本直子

1. 学年テーマのねらい

高校1年生の総合人間科では「生命と環境」の大テーマのもと、生徒一人一人に個人研究テーマを設定させフィールドワークを中心とした学習活動を展開している。脱教室の試みとして地域社会とのつやがり、人とのつながりを形成させながら自己の存在を考えさせることをめざして、学年テーマを「いのちのネットワーク ―生命と環境を考える」とした。

「いのちのネットワーク」とは、私たちがタテの（親から子、歴史などの時間的）つながり、ヨコの（地域、国、地球の自然環境や社会環境などの空間的）つながりといった無数のいのちの関連つまりネットワークの中で生きていることを学び、みんなで支えあって生きていると体で実感することをイメージしたものである。また、個人研究とすることで「生命と環境」を物理・化学・生物といった自然科学や、政治・経済・法律・国際関係・福祉といった社会科学、文学・歴史・心理・教育といった人文科学、さらには芸術・保健などさまざまな視点からのアプローチが可能となり、より多くの学問分野を結び付けたり、学ぶ課程での情報や人間の幅広いネットワークを築こうという意図も込められている。

2. これまでの実践

高校3年の入門的段階である1年では、まず第一に学び方を学び「自己学習力」を育てることを念頭においた。自らの興味や関心を発揮し一人一人が自分に課す問題を提起し、研究方法を検討していく過程を重視している。

ここでは、4月から10月の7ヵ月間の学習のプロセスを追って、学習方法や教師の指導方法について報告し、総合人間科のカリキュラムを考察したい。

3. 生徒の取り組みの様子

具体的な生徒の活動例を紹介しながら、総合人間科の意義と課題を浮き彫りにしたい。

4. 今後の課題